

令和5年度福島県（福島市）地域社会少林寺拳法指導者研修会 報告書
〔中学校武道必修化特化型〕

開催期間：令和5年10月14日（土）～15日（日）

会 場：公益社団法人福島県トラック協会 レクリエーション施設

参加者：22名

派遣講師：小井寿史 大拳士五段

安田智幸 准範士六段

【1日目】

開講式に続いて鎮魂行が行われた。はじめに安田智幸講師による「少林寺拳法連盟における中学校武道必修化」についての講義が行われ、少林寺拳法連盟の必修化対策を説明した。静的なストレッチ・歩きながらのウォーミングアップ・ゲーム性を交えたものを行い、股関節の可動域を広げるようにした。安田講師からは「ストレッチされているところを意識するとより効果的である」と受講生らに伝えた。

その後、礼法に移った。中学生が苦戦する「着座」「安座」を、二人一組になって、動きを6つに区切り、号令をかけて練習をして「教える・教えられる」を体験した。基本となる技（内受突・下受蹴・上受突など）を中学生に教える想定をしながら、より効果的な指導方法を考えながら練習をした。

午後は、小井寿史講師による「非認知能力を高める少林寺拳法授業」と題して講義を行った。非認知能力は、アメリカの経済学者ジェームズ・ヘックマンが提案。いわゆる見えない学力・点数にできない学力。講義では、自己チェック・小テストを交えながら、受講生らに非認知能力（人格・人間力）の重要性を説明した。その後、グループに分かれて、基本となる技をどのように教えるかの教材研究・演武発表作りを行い、翌日の演武発表へとつなげた。



小井寿史講師による講義

【2日目】

午前、1日目同様に鎮魂行の後、準備体操を行った。次に、小井講師による演武発表（龍王拳第一系 相対演武）における評価表の作成の仕方について、講義があった。「ゴールを設定・共有することで、生徒も教師もビジョンを持って授業に臨める」と説明があった。受講生らはグループに分かれて、評価表の作成・演武発表の練習を行った。

午後は、3グループがそれぞれ考えた演武を発表した。見ているグループは、演武発表グループが作成した評価表をもとに、評価をした。講師・受講生らで評価について意見交換・発表をした。評価表の作成では、評価をすることの難しさが見受けられた。



グループに分かれて、評価表・演武発表の準備

閉会式では、小井講師、安田講師が講評を述べ、全日程が終了した。